

令和5年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

【通信教育部】

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和6年1月13日	CHAmmit参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、学生、FD委員、学務担当、教務課員等の計8名で、学部提案書について1時間30分程度、実現に向けて意見交換を行った。

2 通信教育部から学生へのメッセージ

通信教育部には、大学卒業資格や、教職、学芸員、司書教諭などの資格取得を可能とするカリキュラムや、深い教養と実践的な知識を獲得できる科目が開講され、学生一人ひとりの状況に合わせた選択が可能な、スクーリングやインターネットを柔軟に利用できる学修方法と単位修得方法が採用されています。基本となる通信学修（レポート+科目修得試験）のみならず、様々な形態のスクーリングを開講し、令和6年度からは「Sメディア」という新たな形態のメディアを利用して行う授業も開設します。通信教育部の多様な学び方をフルに活用し、学生一人ひとりが、自ら考え・学び・道を拓く力を身に付け、それぞれの入学目的を達成されることを心から願っています。

3 学部提案書の対応について

「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p><受講機会の拡大> 現在開かれていない科目の開講、オンデマンド授業の増設、ハイフレックス授業の実現、地方スクーリングの充実、科目修得試験地方会場の実施回数不公平感の解消など、地方在住や働きながら学んでいる学生の受講機会を拡大してほしい。</p>	一部 ○	○		例えば、昼間スクーリングの科目数を拡大しても、通学範囲内に居住する学生しか利益を享受できません。そこで、すべての学生が公平に受講できる機会を拡大するため、令和6年度から、時間と場所にとられないオンデマンド授業を拡充した「Sメディア」を実施します。スクーリング開講科目や科目修得試験の学事事項については、学務委員会という会議体にて協議しています。受講者数・受験者数が見込めない地域があることや担当できる教員の確保が難しい科目など、すぐに対応できない側面はありますが、隔年で開講することが可能かといった検討をしています。
<p><学修のフィードバックの実施> スクーリングでは、一部、各課題や最終試験の解説等を実施する科目があるが、フィードバックがない科目もある。科目修得試験においてもフィードバックがないまま成績評価となるため、全体公表でも構わないので「評価のポイント」などを公開してほしい。また、対面授業であれば、授業の前後に先生に直接質問ができるが、ZOOMのオンライン授業の場合、時間で授業終了となってしまうことがあるので、Q&Aの時間を作ってほしい。</p>			○	科目の特性により、一律のフィードバックが難しいものや担当教員ごとの授業の進め方があるため、全科目に「評価のポイント」公開やQ&Aの時間を設けることを適用させるのは難しいですが、可能な限り対応するよう、授業担当教員との連絡会等の機会を通して、教員への周知を徹底していきたいと思います。また、授業終了後に実施している「授業評価アンケート」は、学生の皆様の声を直接届ける制度でもあります。授業運営に関する要望等は、こちらもぜひ活用してください。
<p><学生間の交流会の拡大> コロナ禍によりオンラインサロンは実施しているが、対面によるサロンのほか、年齢等により悩みが異なるため、年代別交流会などを実施してほしい。</p>		○		コロナ禍により、学生同士の交流イベントの形態も変化してきました。令和3年度から、オンライン交流会、オンラインサロンを実施し、令和5年度は年8回実施するまでに拡大しました。しかしながら、参加者数が少なく、実施していることを知らないという方がいるのも事実です。今後は、イベントの周知を強化し、まずはより多くの方に参加してもらえよう、対応してまいります。また、学生の主体的な取り組みを促し、支援していきます。

※令和6年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。